

## 第2章

# テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信 環境調査

## 調査概要

### (1)調査目的

北京 2022 パラリンピック大会の開催に合わせ、障害者スポーツのテレビメディアでの露出状況(量的、番組傾向、トピックスなど)を把握し、影響度や障害者スポーツの社会的認知度を図る。

### (2)データ抽出内容

放送日時、テレビ局、番組名、放送時間帯、開始時刻、終了時刻、番組カテゴリー、番組内コーナーなどの項目でデータを抽出する。

### (3)データ抽出条件

東京都内での地上波デジタル(サブチャンネルは含まれない)の放送環境を有するテレビ局の東京エリア放送分のデータをもとに、検索対象ワードとして、①“パラリン”、②“障害” AND “スポーツ”、③“障がい” AND “スポーツ”、④“パラスポーツ”の4条件を設定した。①について、“パラ”と設定した場合、パラリンピック関連以外のワードが大量に対象になってしまうために、本調査では、「パラリンピック」「パラリンピアン」のいずれのワードも対象となるように、“パラリン”を検索対象ワードに設定した。なお、対象となったデータ件数は以下の通りである。

(図表 2-1)

	①“パラリン”	②“障害”AND “スポーツ”	③“障がい”AND “スポーツ”	④“パラスポーツ”
バンクーバー大会	758 件	15 件	0 件	0 件
ソチ大会	1,164 件	35 件	3 件	0 件
平昌大会	2,117 件	59 件	8 件	22 件
北京大会	1,409 件	52 件	5 件	11 件

(4)データ抽出期間

(図表 2-2)

	開会前(31 日間)	開催中(12 日間)	開催後(31 日間)
バンクーバー大会	2010/2/9~2010/3/11	2010/3/12~2010/3/21	2010/3/22~2010/4/21
ソチ大会	2014/2/4~2014/3/6	2014/3/7~2014/3/16	2014/3/17~2014/4/16
平昌大会	2018/2/6~2018/3/8	2018/3/9~2018/3/18	2018/3/19~2018/4/18
北京大会	2022/2/1~2022/3/3	2022/3/4~2022/3/13	2022/3/14~2022/4/13

(5)データ提供者

株式会社エム・データ (M Data CO.,Ltd)

住所:東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング 9 階

TEL:03-3519-7060

URL:<https://mdata.tv/>

(6)集計・分析

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局

住所:東京都荒川区西日暮里 2-40-10

TEL:03-3802-6775

URL:<http://www.surece.co.jp>

## 要約

- ◆ 過去 4 大会の合計放送時間は、バンクーバー大会が 35 時間 27 分 13 秒、ソチ大会が 72 時間 5 分 15 秒、平昌大会が 113 時間 28 分 40 秒、北京大会が 79 時間 18 分 26 秒と、平昌大会で増加した放送時間は、北京大会で減少した。
- ◆ 「開催前」「開催中」「開催後」の北京大会の放送時間をみると、「開催前」はソチ大会、平昌大会、北京大会と大きな違いはみられず、「開催中」はソチ大会から平昌大会にかけて倍増したが、北京大会で減少した。「開催後」はソチ大会から平昌大会にかけて微増したが、北京大会では減少して、ソチ大会と同規模の放送時間であった。
- ◆ 過去4大会のテレビ局の合計放送時間は、「NHK 総合」(139 時間 36 分 18 秒)が最も多く、ついで、「NHK 教育」(46 時間 9 分 9 秒)、「日本テレビ」(31 時間 31 分 24 秒)であった。大会別に 10 時間以上放送しているテレビ局は、バンクーバー大会、ソチ大会では「NHK 総合」「NHK 教育」の 2 局、平昌大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」の 3 局、北京大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」「TBS」の 4 局であった。
- ◆ 過去4大会の番組カテゴリー別の合計放送時間は、「スポーツ」(100 時間 50 分 18 秒)が最も多く、ついで、「ニュース/報道」(95 時間 35 分 35 秒)、「情報/ワイドショー」(64 時間 21 分 11 秒)であった。「スポーツ」「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」の放送時間は、平昌大会が最も多く、北京大会ではいずれも減少した。
- ◆ 番組内で取り上げられたコーナー別の放送時間は、過去 4 大会ともに「スポーツ」が最も多かった。「スポーツ」では、ソチ大会から平昌大会にかけて放送時間が倍増したが、平昌大会から北京大会にかけて減少した。

## 調査報告

## 1. メディア放送時間(単純集計)

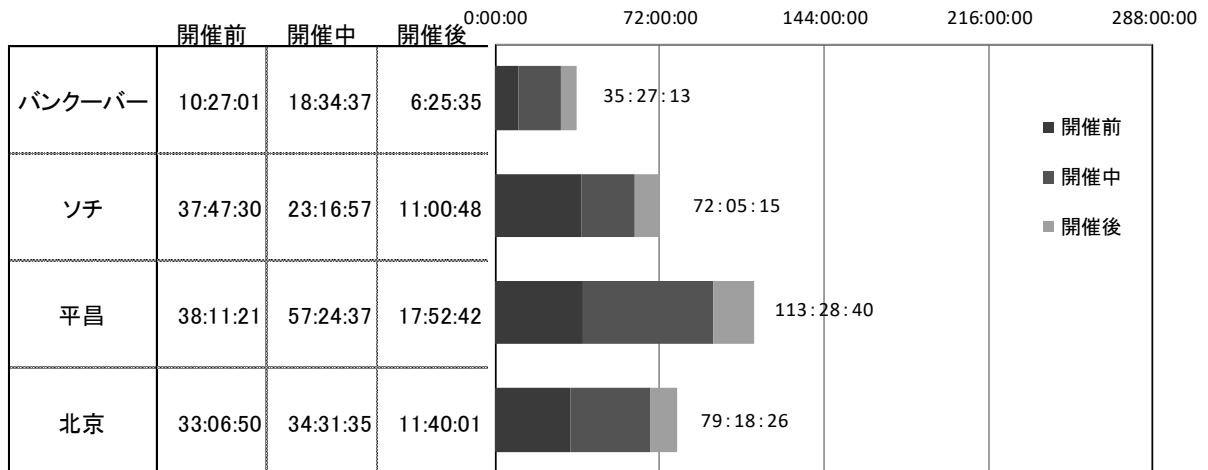
バンクーバー大会、ソチ大会、平昌大会、北京大会の地上波テレビ放送をパラリンピックの開催前1か月、開催中、開催後1か月で見ると、4大会の合計放送時間は、300時間19分34秒であった。

### 1.1 過去4大会(冬季大会)の放送時間の変遷

大会ごとでは、バンクーバー大会が35時間27分13秒、ソチ大会が72時間5分15秒、平昌大会が113時間28分40秒、北京大会が79時間18分26秒であった(図表2-3)。平昌大会で増加した放送時間は、北京大会で減少した。

図表 2-3 過去4大会(冬季大会)の放送時間

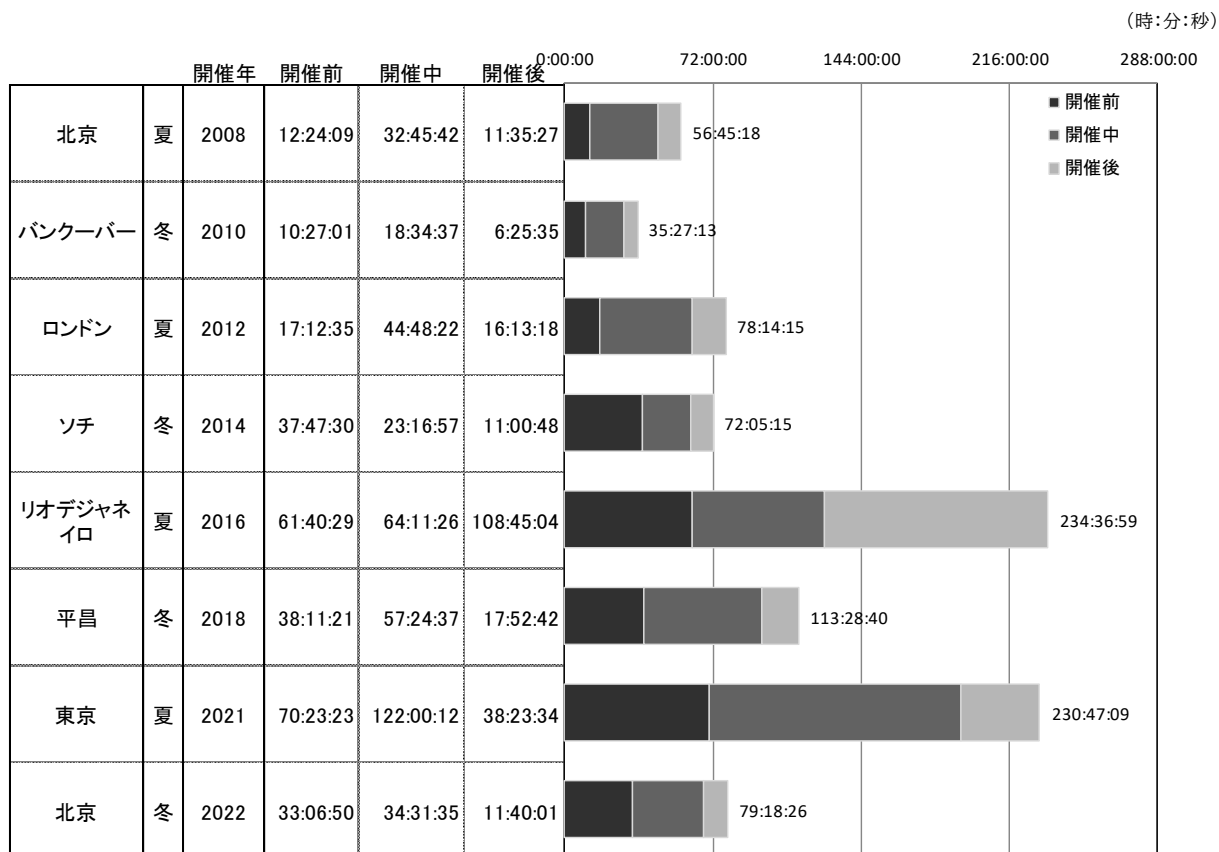
(時:分:秒)



## 1.2 過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間の変遷

夏季大会、冬季大会を合わせた大会ごとの放送時間を時系列でみた。最も放送時間が多かったのはリオデジャネイロ大会の 234 時間 36 分 59 秒、最も放送時間が少なかったのはバンクーバーの 35 時間 27 分 13 秒だった (図表 2-4)。

図表 2-4 過去 8 大会(夏季大会・冬季大会)の放送時間

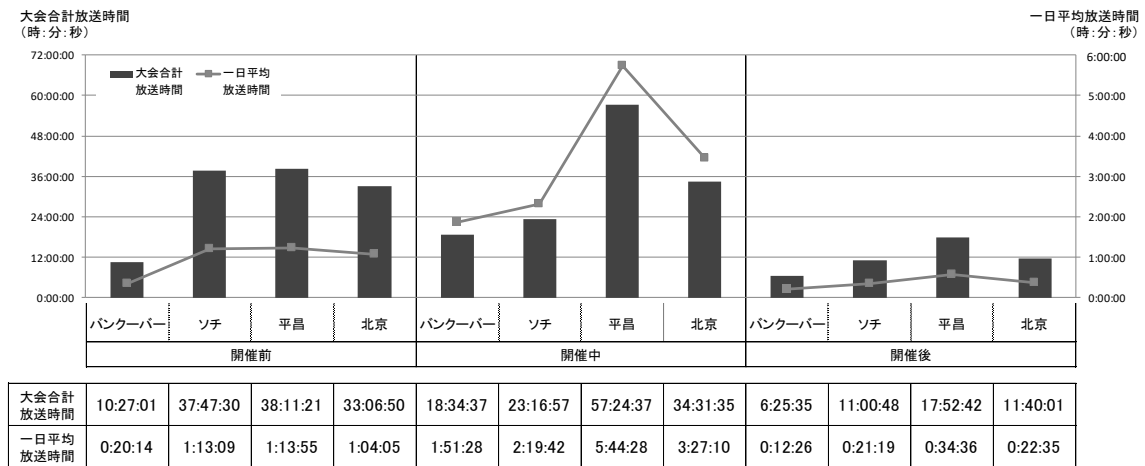


### 1.3 過去4大会(冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間

パラリンピック大会(冬季大会)の「開催前」「開催中」「開催後」にわけて、合計放送時間と一日平均放送時間についてみた(図表 2-5)。「開催前」「開催後」は 31 日間、「開催中」は 10 日間として、一日平均放送時間を算出した。

「開催前」では、バンクーバー大会からソチ大会に放送時間は増加したが、ソチ大会から北京大会にかけて放送時間に大きな違いはみられなかった。「開催中」では、ソチ大会から平昌大会にかけて倍増したが、北京大会では減少した。「開催後」では、ソチ大会から平昌大会にかけて微増したが、北京大会では減少して、ソチ大会と同規模の放送時間であった。

図表 2-5 過去 4 大会(冬季)の開催前、開催中、開催後別放送時間



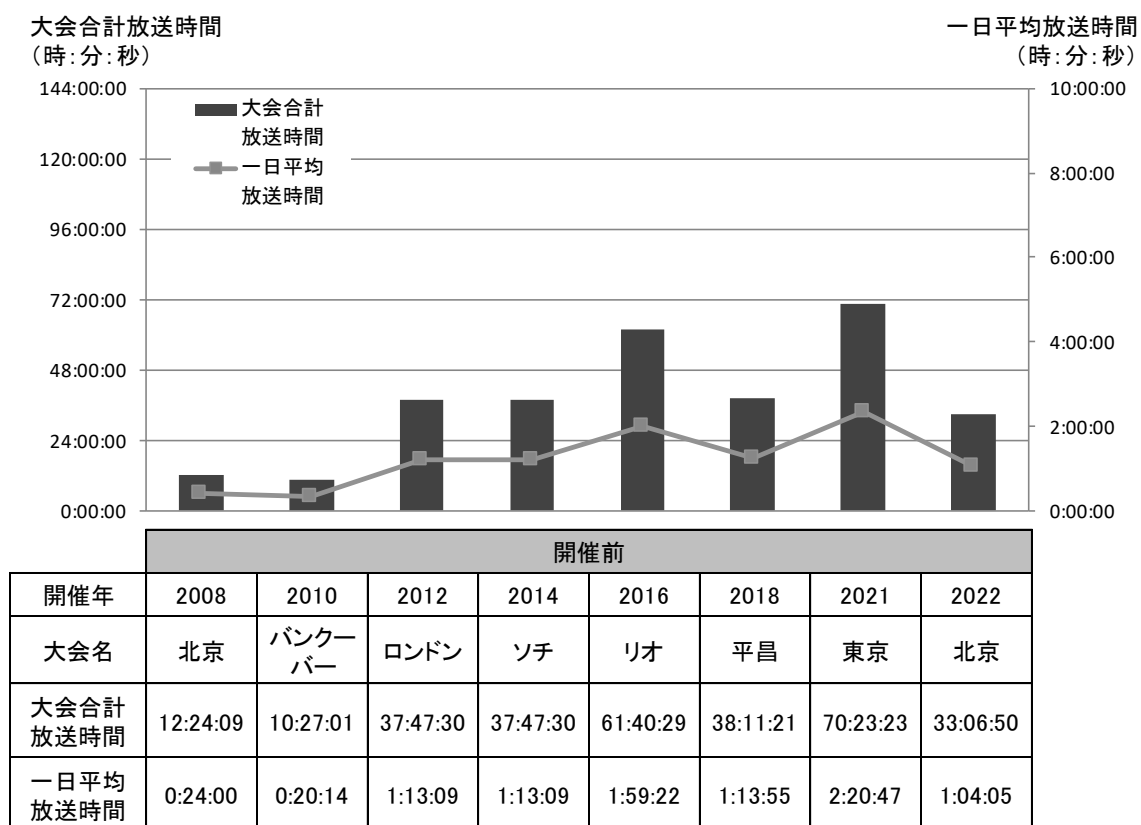


### 1.4 過去 8 大会(夏季・冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間

過去 8 大会(夏季・冬季)の「開催前」「開催中」「開催後」にわけて、合計放送時間と一日平均放送時間についてみた。「開催前」「開催後」は 31 日間、「開催中」は夏季大会 12 日間、冬季大会 10 日間として、一日平均放送時間を算出した。

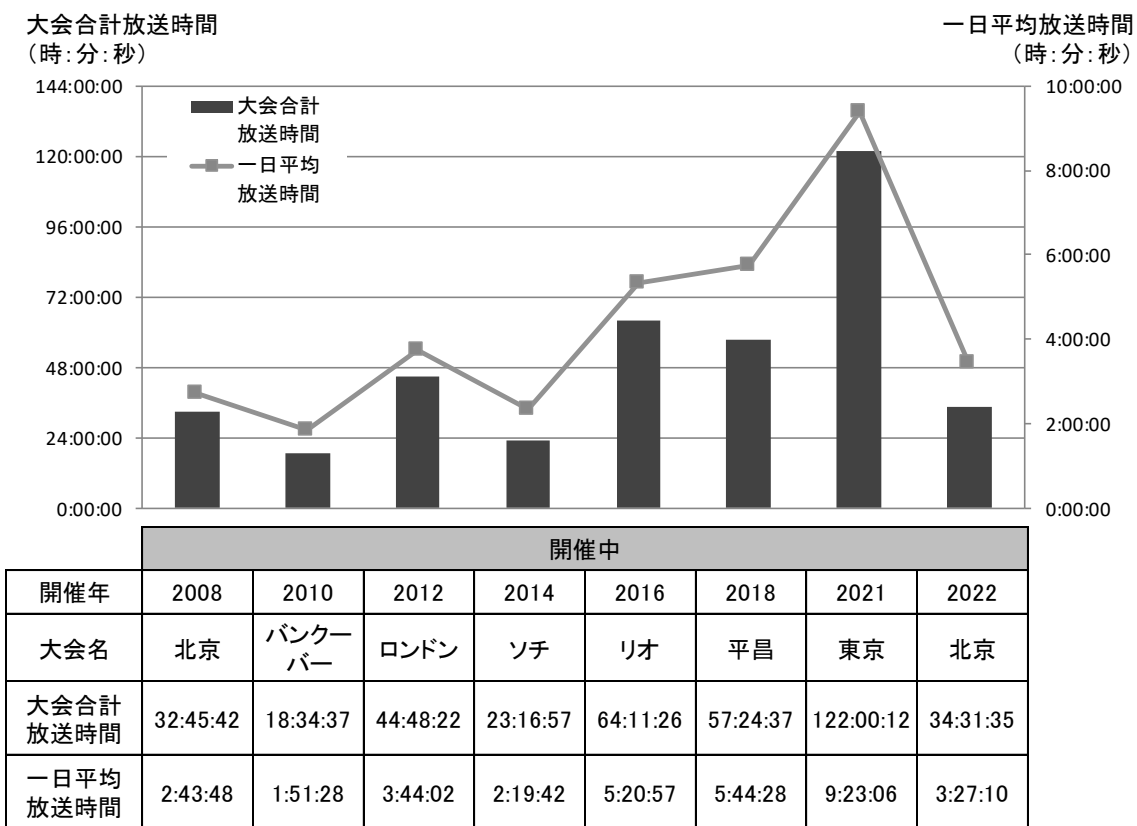
「開催前」の一日平均放送時間をみると、東京大会が 2 時間 20 分 47 秒で最も多く、ついでリオ大会の 1 時間 59 分 22 秒だった。ロンドン大会、ソチ大会、平昌大会は 1 時間 13 分台でほぼ同じだった(図表 2-6)。

図表 2-6 過去 8 大会(夏季・冬季)の開催前の放送時間



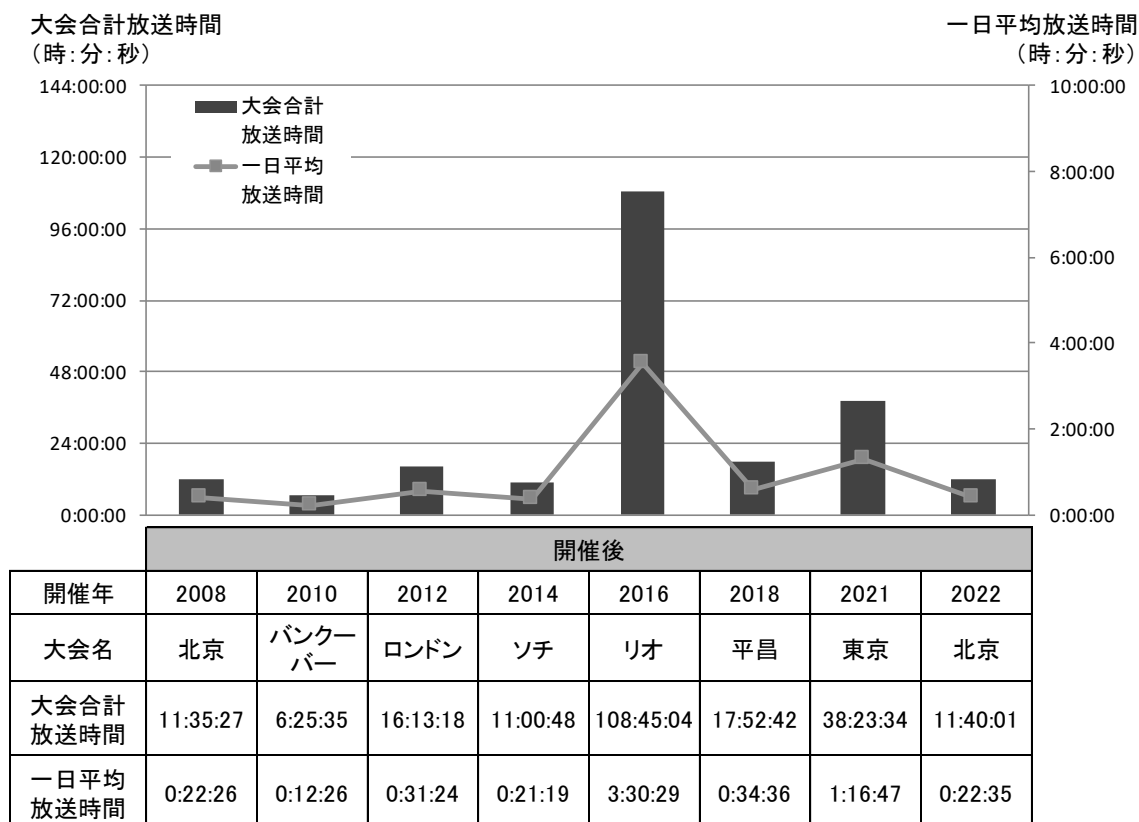
「開催中」の一日平均時間をみると、東京大会 9 時間 23 分 6 秒で最も多く、ついで平昌大会の 5 時間 44 分 28 秒、リオ大会の 5 時間 20 分 57 秒だった(図表 2-7)。東京大会に向けて、リオ大会、平昌大会と一日平均放送時間が徐々に増加した。

図表 2-7 過去 8 大会(夏季・冬季)の開催中の放送時間



「開催後」の一日平均放送時間では、リオ大会が3時間30分29秒で最も多く、ついで東京大会の1時間16分47秒だった(図表2-8)。

図表2-8 過去8大会(夏季・冬季)の開催後の放送時間

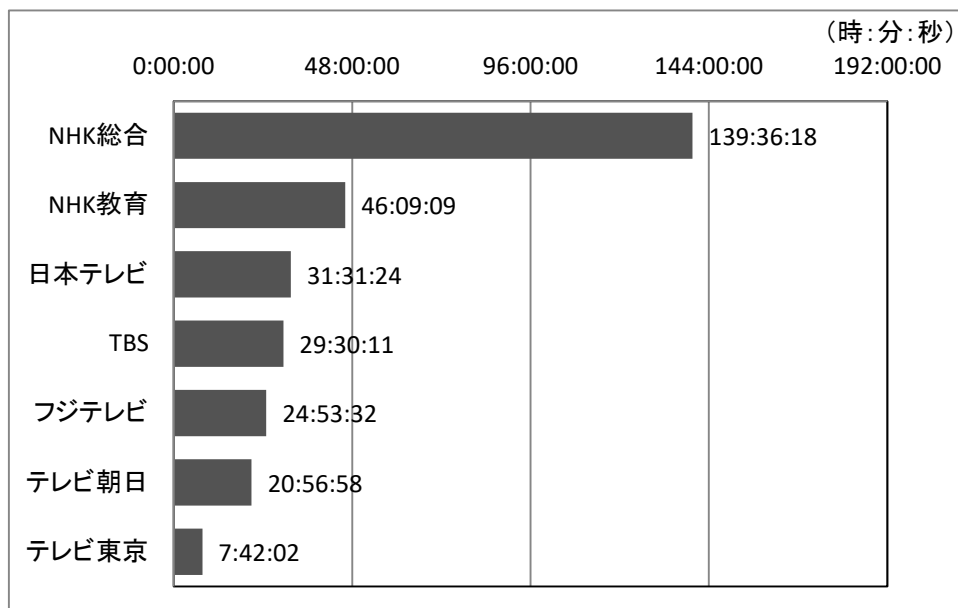


テレビ放送

### 1.5 テレビ局ごとの放送時間

テレビ局ごとに過去4大会(冬季)の合計放送時間をみると、「NHK 総合」が139時間36分18秒と最も多く、ついで、「NHK 教育」の46時間9分9秒、「日本テレビ」の31時間31分24秒であった(図表2-9)。

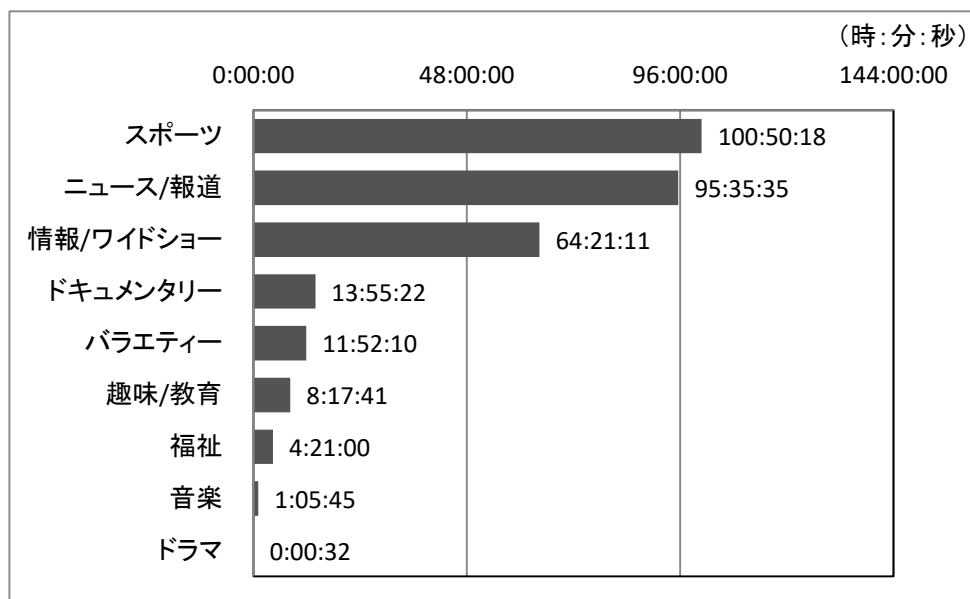
図表2-9 テレビ局の放送時間(過去4大会合計)



## 1.6 番組カテゴリー別にみる放送時間

番組カテゴリー別に過去4大会(冬季)の合計放送時間をみると、最も放送している番組カテゴリーは「スポーツ」(100時間50分18秒)で、ついで、「ニュース/報道」(95時間35分35秒)、「情報/ワイドショー」(64時間21分11秒)であった(図表2-10)。

図表 2-10 番組カテゴリー別にみる放送時間(過去4大会合計)



注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

参考までに、番組カテゴリー別に主な番組名をまとめると、図表 2-11 の通りである。

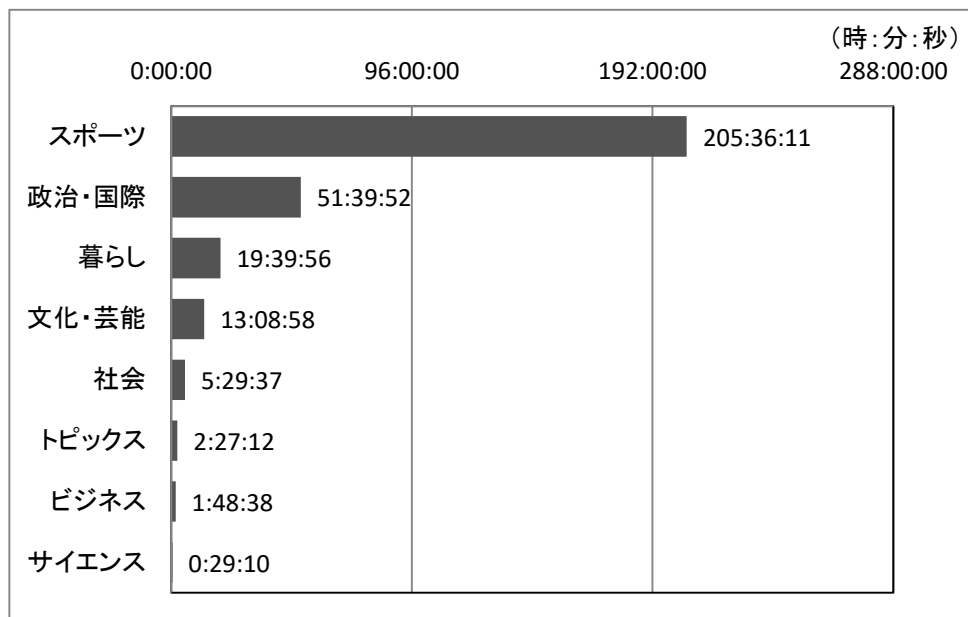
図表 2-11 番組カテゴリー別にみる主なテレビ番組

番組カテゴリー	『番組名』(テレビ局名)
情報/ワイドショー	『ハートネットTV(NHK総合)』『週刊まるわかりニュース(NHK総合)』 『ZIP! (日本テレビ)』『スッキリ(日本テレビ)』『シューイチ(日本テレビ)』 『ノンストップ! (フジテレビ)』『ひるおび(TBS)』『サンデーモーニング(TBS)』 『とくダネ! (フジテレビ)』『めざましテレビ(フジテレビ)』『Mr. サンデー(フジテレビ)』 『グッド! モーニング(テレビ朝日)』『羽鳥慎一モーニングショー(テレビ朝日)』 『なないろ日和! (テレビ東京)』など
ニュース/報道	『週刊こどもニュース(NHK総合)』『ニュース7(NHK総合)』『ニュースウオッチ9(NHK総合)』 『newsevery,(日本テレビ)』『news zero(日本テレビ)』 『サンデーモーニング(TBS)』『news23(TBS)』『Nスタ(TBS)』 『FNNLiveNews α (フジテレビ)』『LiveNewsイット! (フジテレビ)』 『報道ステーション(テレビ朝日)』『サンデーLIVE!! (テレビ朝日)』 『ワールドビジネスサテライト(テレビ東京)』『Newsモーニングサテライト(テレビ東京)』など
スポーツ	『北京オリンピック(NHK総合)』『北京パラリンピックデイリーハイライト(NHK総合)』 『Going! Sports & News(日本テレビ)』 『S☆1PLUS(TBS)』 『北京オリンピック(フジテレビ)』『S-PARK(フジテレビ)』 『SPORTSウォッチャー(テレビ東京)』など

### 1.7 番組内コーナー別にみる放送時間

番組内で取り上げられたコーナー別に過去4大会(冬季)の合計放送時間をみると、最も取り上げられることが多かったコーナーは「スポーツ」(205時間36分11秒)で、ついで、「政治・国際」(51時間39分52秒)であった(図表2-12)。

図表 2-12 番組内コーナー別にみる放送時間(過去4大会合計)



注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

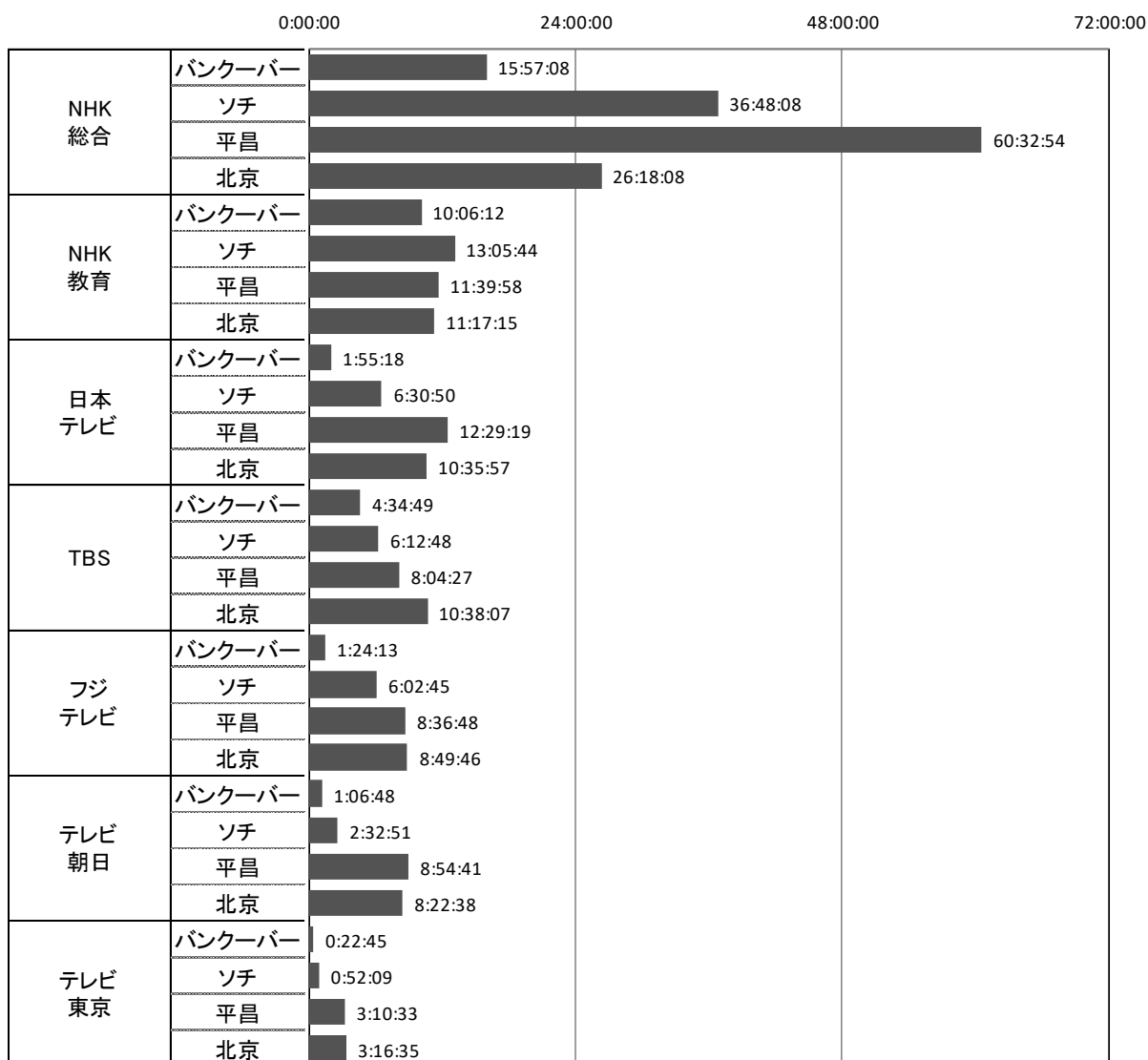
## 2. メディア放送時間(クロス集計)

### 2.1 テレビ局ごとにみた過去4大会(冬季)の放送時間

テレビ局ごとに過去4大会(冬季)の放送時間をみた。「NHK 総合」「日本テレビ」「テレビ朝日」は平昌大会が最も多く、「TBS」「フジテレビ」「テレビ東京」では、北京大会に向けて徐々に放送時間が増加した(図表 2-13)。10 時間以上放送したテレビ局を大会別にみると、バンクーバー大会、ソチ大会では「NHK 総合」「NHK 教育」の2局、平昌大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」の3局、北京大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」「TBS」の4局であった。

図表 2-13 テレビ局別にみる過去4大会(冬季)の放送時間

(時:分:秒)



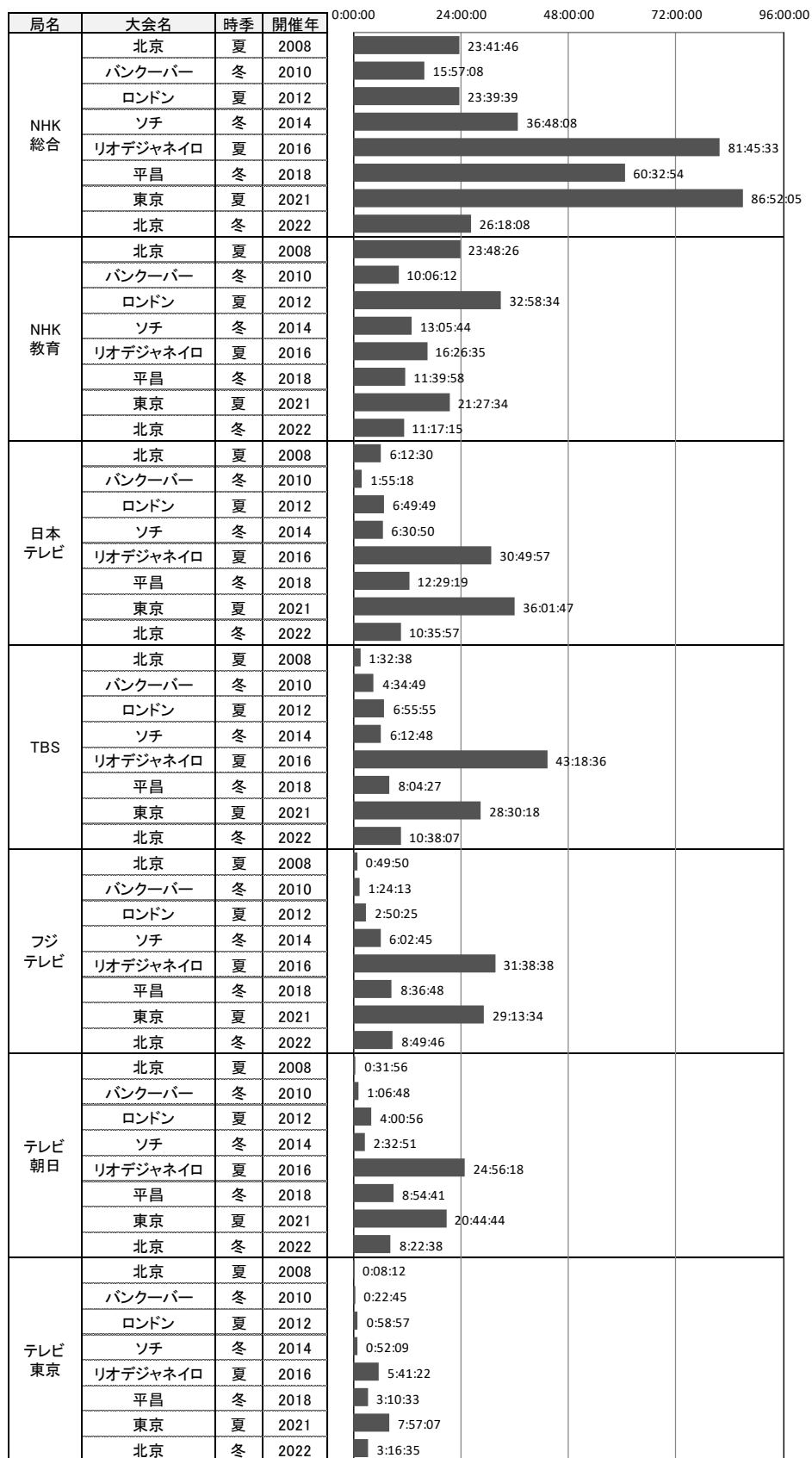


## 2.2 テレビ局ごとにみた過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間

テレビ局ごとに過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間をみた。最も放送時間が多かったのは「NHK 総合」の東京大会の 86 時間 52 分 5 秒だった(図表 2-14)。テレビ局別に最も放送時間の多かった大会をみると、「日本テレビ」「テレビ東京」は東京大会、「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」はリオデジャネイロ大会だった。

図表 2-14 テレビ局別にみる過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間

(時:分:秒)

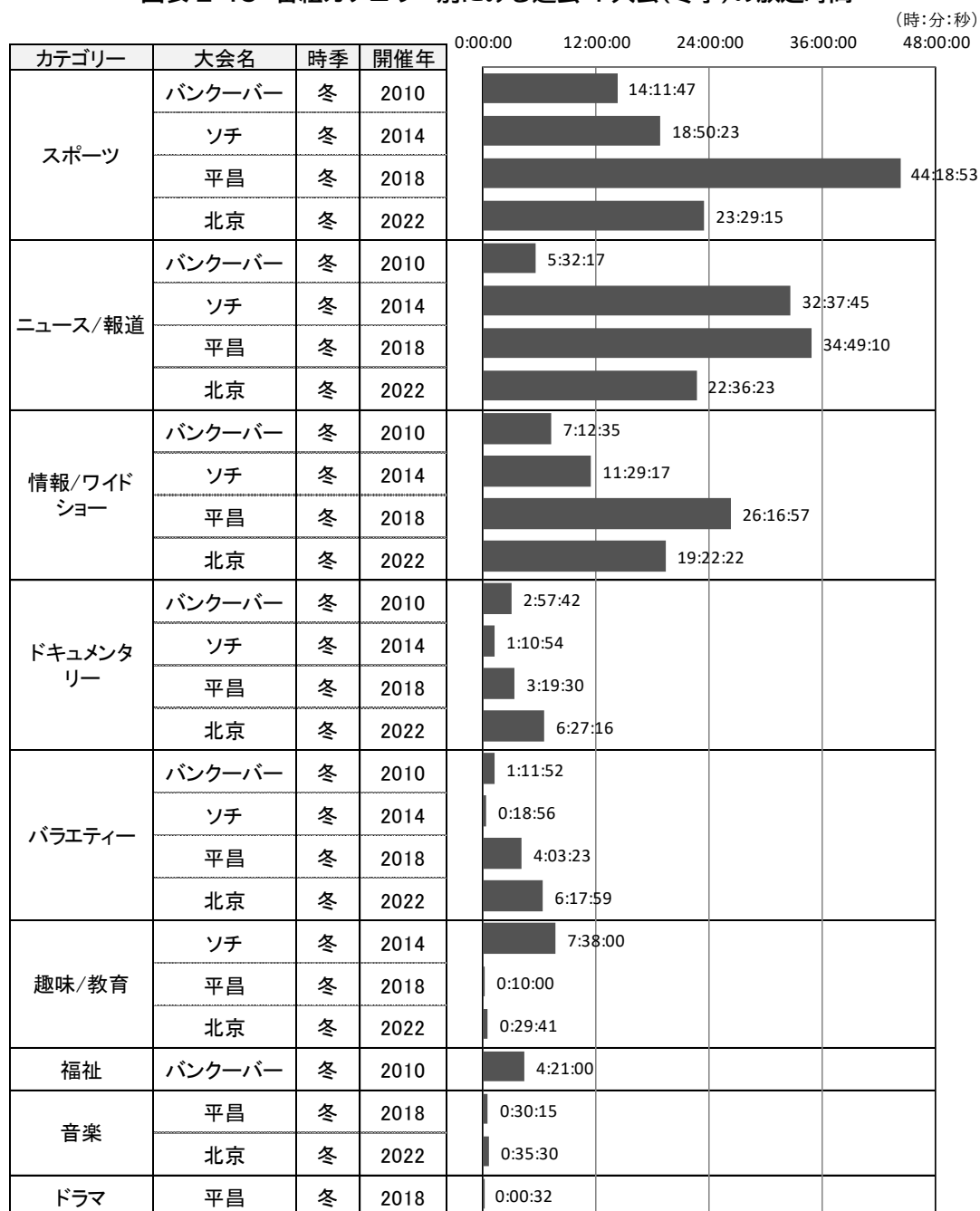


テレビ放送

## 2.3 番組カテゴリー別にみる過去4大会(冬季)の放送時間

番組カテゴリー別に過去4大会(冬季)の放送時間をみると、「スポーツ」「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」は、平昌大会が最も多く、北京大会でいずれも減少した(図表 2-15)。

図表 2-15 番組カテゴリー別にみる過去4大会(冬季)の放送時間

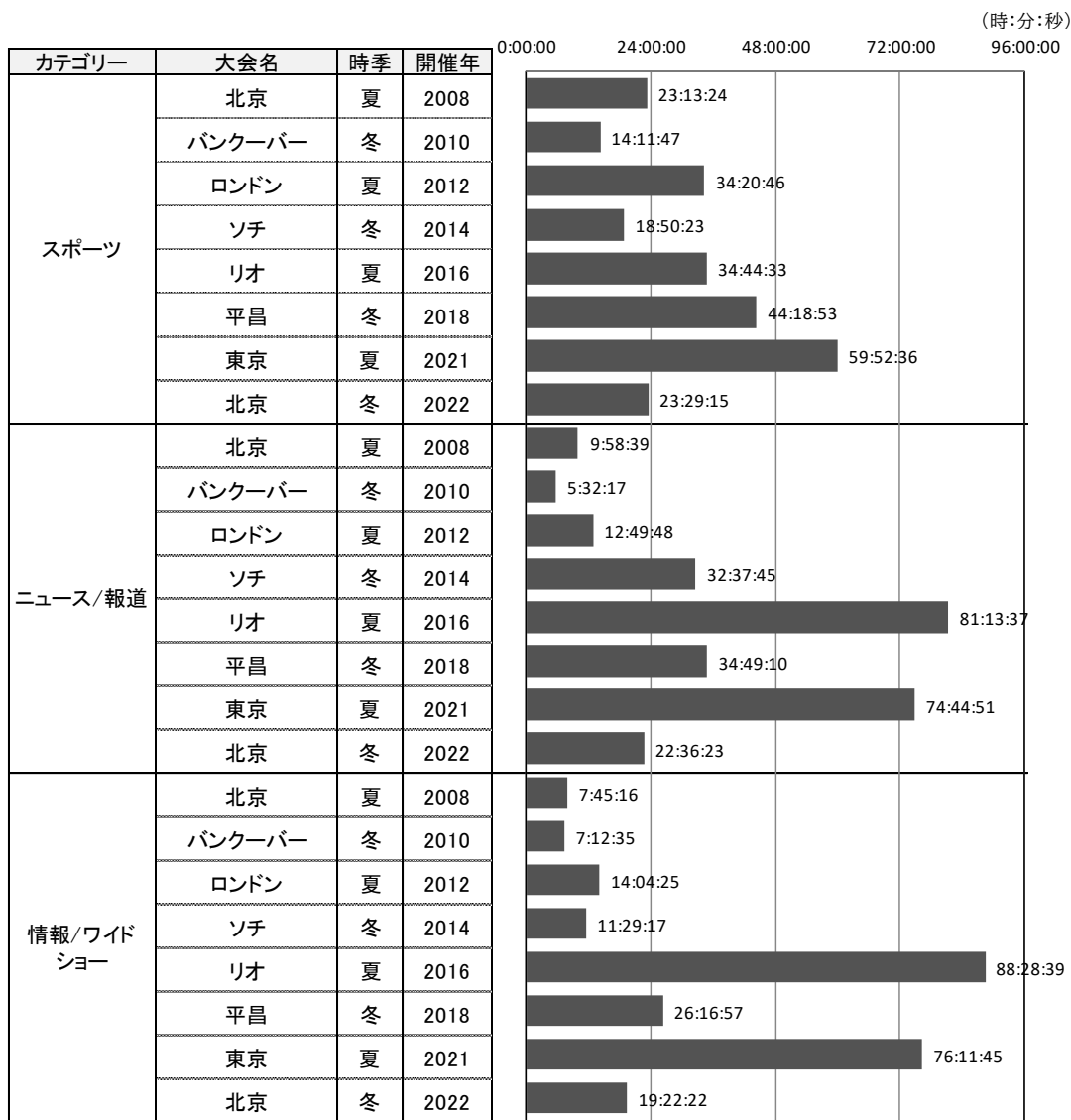


注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

## 2.4 番組カテゴリー別にみる過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間

番組カテゴリー別に過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間を、「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」「スポーツ」についてみた。「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」では、リオデジャネイロ大会が最も多く、ついで東京大会だった。「スポーツ」では、リオデジャネイロ大会、平昌大会と徐々に増え、東京大会が最も多かった(図表 2-16)。

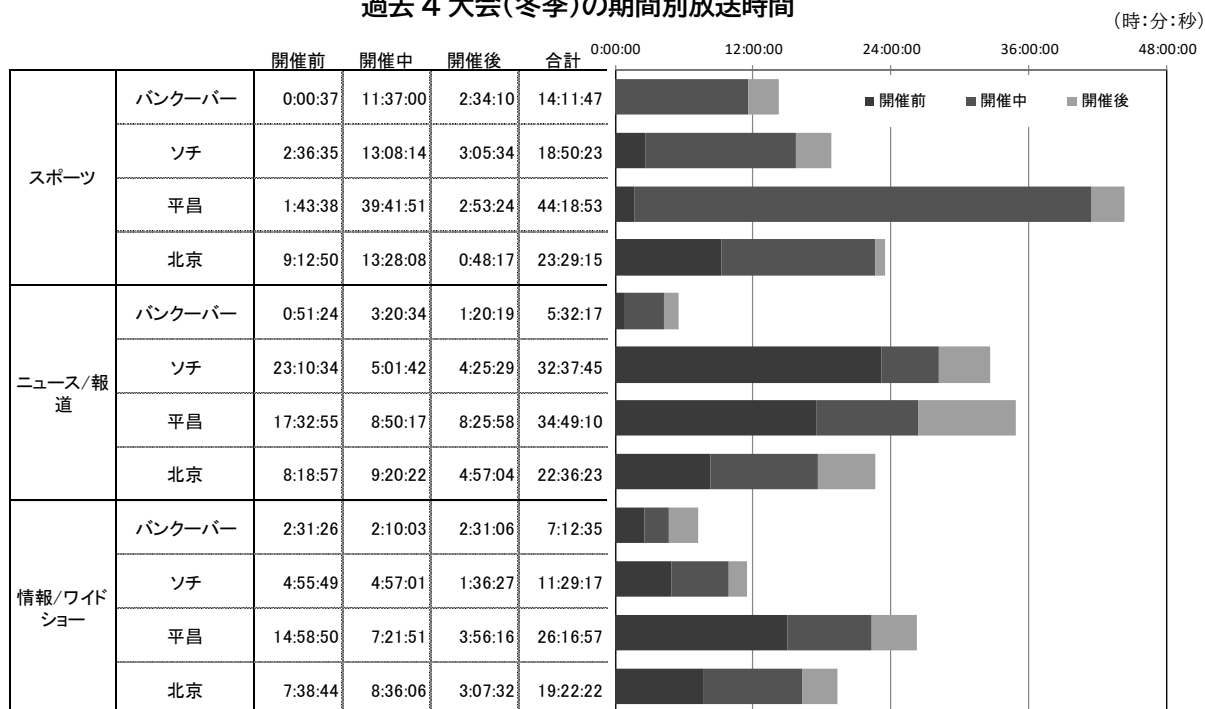
図表 2-16 番組カテゴリー別にみる過去8大会(夏季・冬季)の放送時間



## 2.5 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)にみる過去4大会(冬季)の期間別放送時間

番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)の過去 4 大会(冬季)の放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」で見ると、「スポーツ」は平昌大会の「開催中」が最も多く、「ニュース/報道」はソチ大会の「開催前」、「情報/ワイドショー」は平昌大会の「開催前」が最も多かった(図表 2-17)。

図表 2-17 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)にみる  
過去 4 大会(冬季)の期間別放送時間

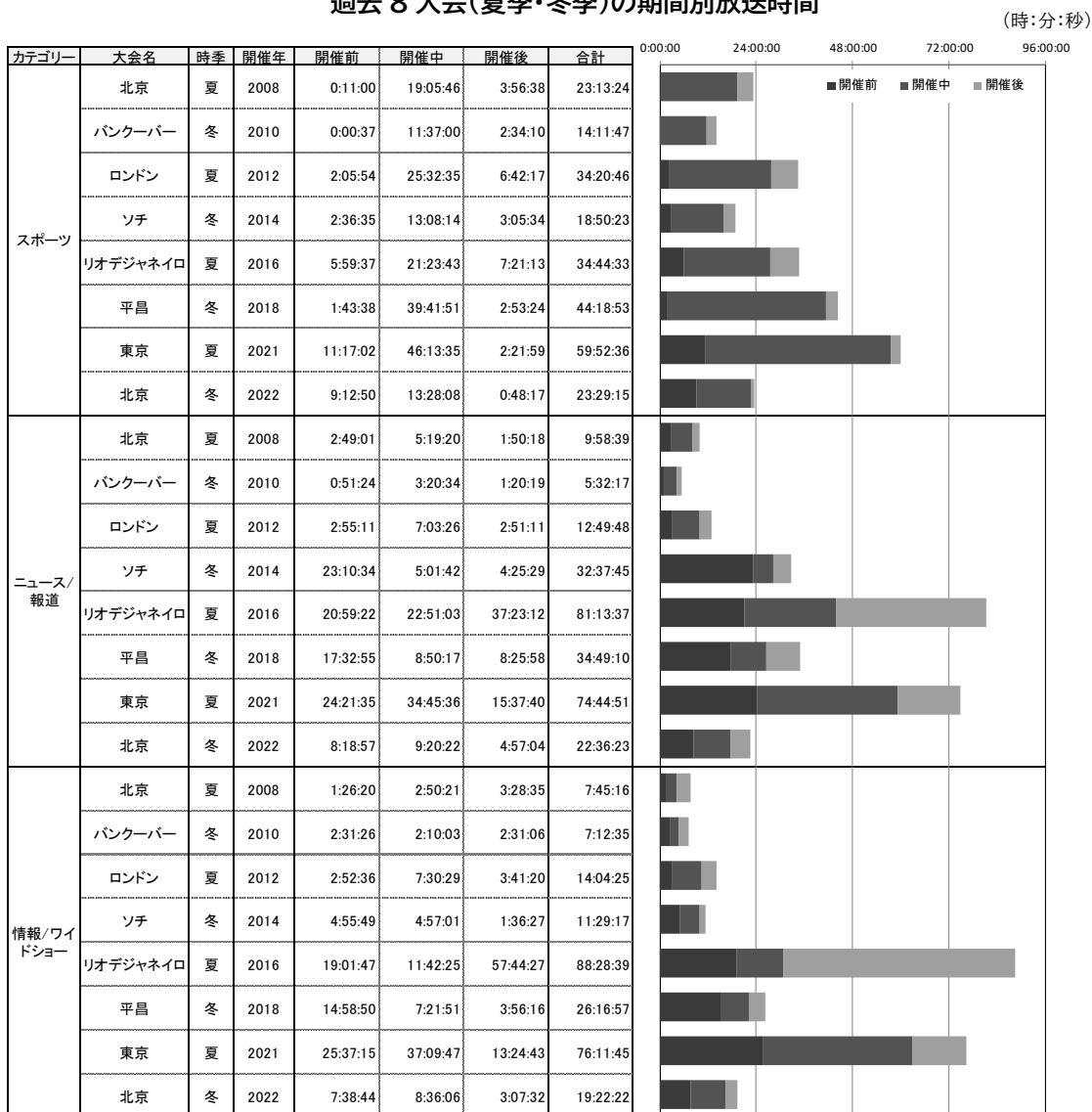


注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

## 2.6 番組カテゴリー別(上位3カテゴリー)にみる過去8大会(夏季・冬季)の期間別放送時間

番組カテゴリー別(上位3カテゴリー)の過去8大会(夏季・冬季)の放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」でみると、「スポーツ」は、東京大会の「開催中」が最も多く、「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」は、リオデジャネイロ大会の「開催後」が最も多かった(図表2-18)。

図表2-18 番組カテゴリー別(上位3カテゴリー)にみる過去8大会(夏季・冬季)の期間別放送時間

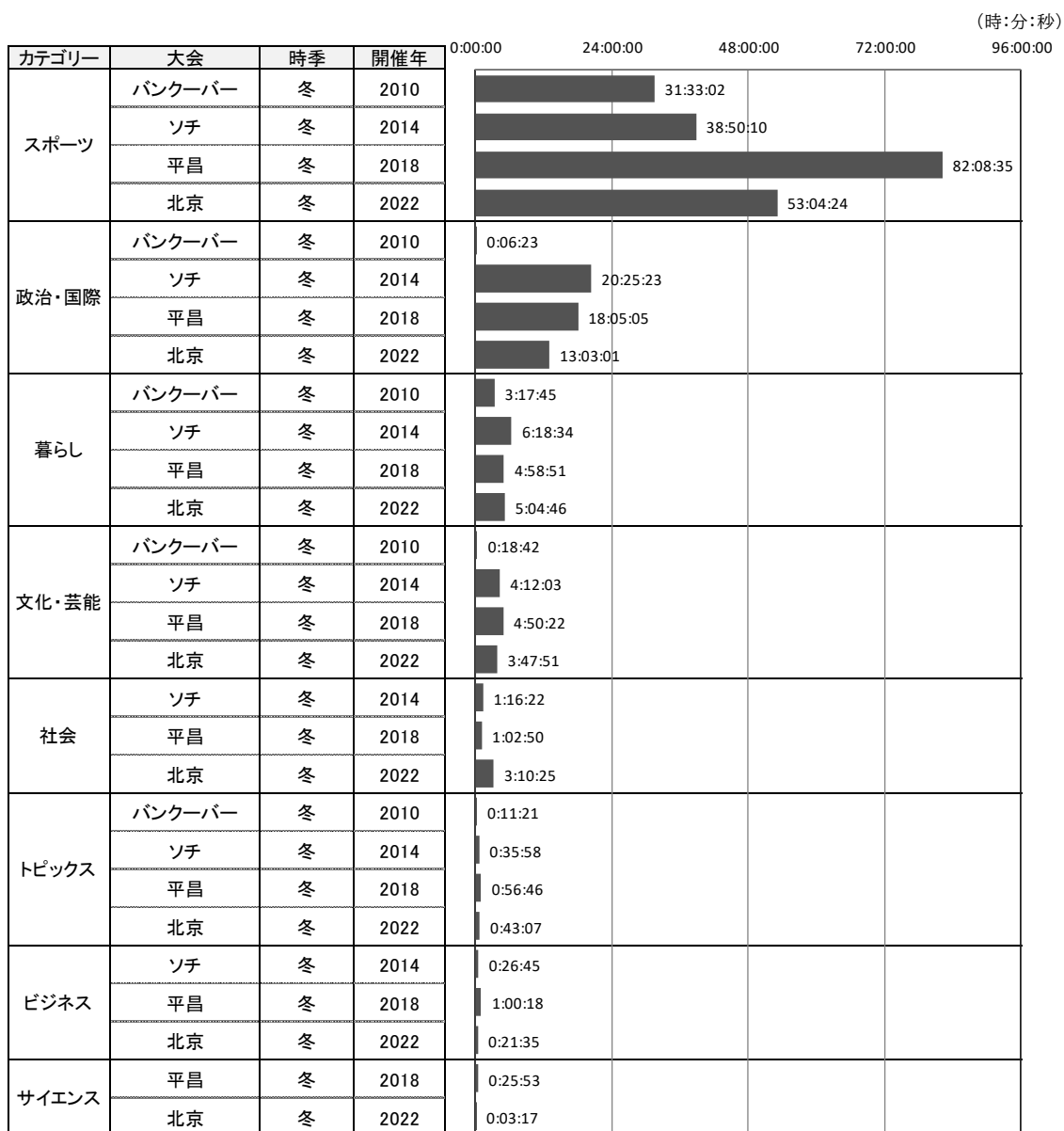


注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

## 2.7 番組内コーナー別にみる過去4大会(冬季)の放送時間

番組内で取り上げられたコーナー別に過去4大会(冬季)の放送時間をみると、過去4大会ともに「スポーツ」コーナーで取り上げられる放送時間が最も多かった(図表 2-19)。「政治・国際」では、ソチ大会、平昌大会、北京大会と放送時間が10時間以上だった。

図表 2-19 番組内コーナー別にみる過去4大会(冬季)の放送時間

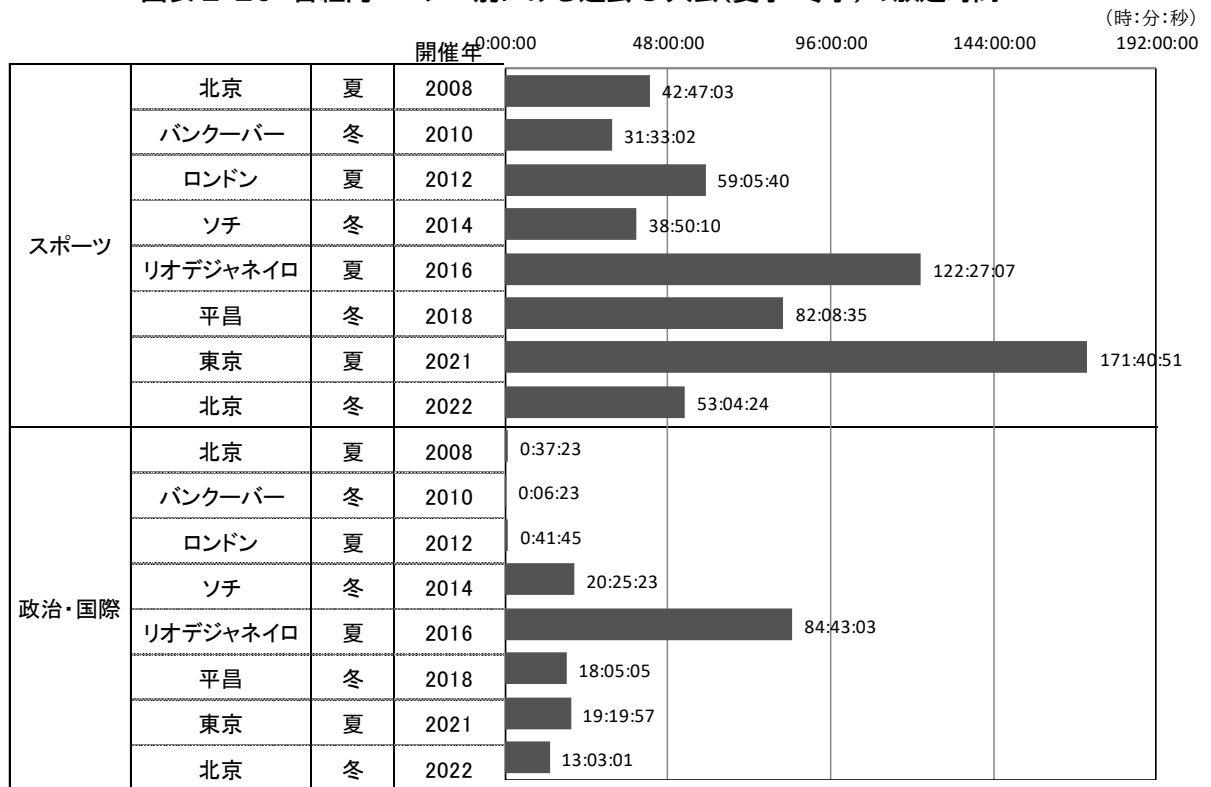


注) 番組カテゴリーは、番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

## 2.8 番組内コーナー別(上位 2 位)にみる過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間

番組内で取り上げられたコーナーの上位 2 位の「スポーツ」「政治・国際」について、過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間をみた(図表 2-20)。「スポーツ」コーナーでは東京大会(171 時間 40 分 51 秒)が最も多く、ついでリオデジャネイロ大会(122 時間 27 分 7 秒)だった。「政治・国際」では、リオデジャネイロ大会(84 時間 43 分 3 秒)が最も多く、ついでソチ大会(20 時間 25 分 23 秒)、東京大会(19 時間 19 分 57 秒)、平昌大会(18 時間 5 分 5 秒)だった。

図表 2-20 番組内コーナー別にみる過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間



注) 番組カテゴリーは、番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内で取り上げたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。



### 3.北京大会日本代表選手別の放送時間

北京大会に出場した日本代表選手 29 人のうち、放送時間の多い上位 20 人は以下の通りであった(図表 2-21)。

図表 2-21 北京大会の放送時間が長い選手上位 20 位

NO.	氏名	ふりがな	競技	(時:分:秒)
				放送時間 合計
1	村岡桃佳	むらおかももか	アルペンスキー	11:11:00
2	川除大輝	かわよけ たいき	クロスカントリースキー	7:48:11
3	新田佳浩	にったよしひろ	クロスカントリースキー	6:26:33
4	森井大輝	もりいたいき	アルペンスキー	5:44:21
5	岡本圭司	おかもとけいじ	スノーボード	3:06:45
6	小栗大地	おぐりだいち	スノーボード	2:44:09
7	森宏明	もりひろあき	クロスカントリースキー/バイアスロン	2:05:34
8	大岩根正隆	おおいわね まさたか	スノーボード	1:51:13
9	鈴木猛史	すずきたけし	アルペンスキー	1:38:52
10	田中佳子	たなかよしこ	アルペンスキー	0:59:16
11	狩野亮	かのうあきら	アルペンスキー	0:50:08
12	小須田潤太	こすだじゅんた	スノーボード	0:48:03
13	本堂杏実	ほんどう あんみ	アルペンスキー	0:33:18
14	原田紀香	はらだのりか	アルペンスキー	0:29:49
15	岩本啓吾	いわもと けいご	クロスカントリースキー	0:29:02
16	田淵伸司	たぶちしんじ	スノーボード	0:28:27
17	出来島桃子	できじまももこ	クロスカントリースキー/バイアスロン	0:28:23
18	佐藤圭一	さとうけいいち	クロスカントリースキー/バイアスロン	0:27:52
19	市川貴仁	いちかわたかひと	スノーボード	0:25:58
20	藤原哲	ふじわらてつ	アルペンスキー	0:25:03

開催前、開催中、開催後ごとの放送時間の多い上位 10 人は以下の通りであった(図表 2-22)。

図表 2-22 北京大会の放送時間が長い選手上位 10 位(開催前・開催中・開催後)

(時:分:秒)

NO.	開催前			開催中			開催後		
	氏名	競技	放送時間	氏名	競技	放送時間	氏名	競技	放送時間
1	村岡桃佳	アルペン スキー	2:49:36	村岡桃佳	アルペン スキー	6:58:19	村岡桃佳	アルペン スキー	1:23:05
2	新田佳浩	クロスカント リースキー	2:30:47	川除大輝	クロスカント リースキー	5:10:28	川除大輝	クロスカント リースキー	0:53:14
3	森井大輝	アルペン スキー	2:07:40	新田佳浩	クロスカント リースキー	3:46:27	鈴木猛史	アルペン スキー	0:25:29
4	岡本圭司	スノーボード	1:47:25	森井大輝	アルペン スキー	3:13:24	森井大輝	アルペン スキー	0:23:17
5	川除大輝	クロスカント リースキー	1:44:29	小栗大地	スノーボード	1:27:52	本堂杏実	アルペン スキー	0:18:40
6	小栗大地	スノーボード	1:16:17	岡本圭司	スノーボード	1:14:20	小須田潤太	スノーボード	0:16:39
7	森宏明	クロスカント リースキー	1:13:42	田中佳子	アルペン スキー	0:54:25	新田佳浩	クロスカント リースキー	0:09:19
8	大岩根正隆	スノーボード	0:58:25	鈴木猛史	アルペン スキー	0:53:42	岡本圭司	スノーボード	0:05:00
9	鈴木猛史	アルペン スキー	0:19:41	大岩根正隆	スノーボード	0:52:48	田中佳子	アルペン スキー	0:04:51
10	田淵伸司	スノーボード	0:04:07	森宏明	クロスカント リースキー	0:51:52	狩野亮	アルペン スキー	0:04:31

#### 4.まとめと考察

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1年延期となった東京2020パラリンピック競技大会が終了して1年以上が経過した。本調査は、2021年9月に閉幕した東京パラリンピックから、半年後に開催された北京2022パラリンピック大会の地上波テレビ放送時間に、夏季・冬季合わせた過去8大会のパラリンピックの放送時間を追加し、集計・分析したものである。

まずは、冬季大会について概観する。大会別の放送時間をみると、バンクーバー大会(35時間27分13秒)、ソチ大会(72時間5分15秒)、平昌大会(113時間28分40秒)と放送時間は大会を重ねるごとに増加していたが、北京大会(79時間18分26秒)で減少した。大会を「開催前」「開催中」「開催後」にわけてみると、「開催前」はソチ大会、平昌大会、北京大会と放送時間に大きな違いはみられず、「開催後」についても、ソチ大会から平昌大会にかけて微増はあったが、北京大会含めて、放送時間に大きな違いはなかった。「開催中」では、ソチ大会から平昌大会にかけて倍増したが、北京大会では減少し、平昌大会の開催期間の放送時間が非常に多かった。テレビ局ごとにみると、4大会の合計放送時間は「NHK総合」が最も多く、ついで「NHK教育」「日本テレビ」「TBS」となっている。過去4大会でみると、「NHK総合」では平昌大会(60時間32分54秒)から北京大会(26時間18分8秒)で放送時間は半減以上となった。これはソチ大会(36時間48分8秒)よりも減少したことになる。要因として考えられるのが、日本代表選手の選手数と参加競技数である(図表2-23)。平昌大会の選手数は38人、参加競技数は4競技(アルペンスキー、クロスカントリースキー/バイアスロン、スノーボード、アイスホッケー)である。ソチ大会、北京大会と比べても選手数、参加競技数ともに多い。選手数が多く、参加競技数も多いと、多くの日本代表選手に注目した放送をすることが可能となることから、過去4大会で平昌大会の放送時間が最も多かった理由の1つだと推察する。一方で、北京大会とソチ大会を比較すると、選手数、参加競技数ともに北京大会の方が多。平時であれば、北京大会の放送時間の方が多かったと予想できるが、北京大会の開催時期は、ロシアによるウクライナ侵攻と重なり、限られた放送時間を社会的影響力のあるニュースに譲ったと考えるのが自然だろう。さらに、選手数、参加競技数をみると、バンクーバー大会が過去4大会では最多である。ただ、開催した2010年は、東京でのパラリンピック開催が決定する2013年よりも前の時期にあたる。メディアの注目度もそれほど大きくなく、それが放送時間にも影響したと推察できる。

図表 2-23 冬季大会の日本代表選手団の選手数と参加競技

		バンクーバー 2010大会	ソチ 2014大会	平昌 2018大会	北京 2022大会
<b>選手数</b>		<b>41</b>	<b>20</b>	<b>38</b>	<b>29</b>
競技	アルペンスキー	13	12	9	14
	クロスカントリースキー／ バイアスロン	8	8	9	9
	スノーボード			3	6
	アイスホッケー (アイススレッジホッケー)	15		17	
	車いすカーリング	5			

続いて、2008年以降のパラリンピックの放送時間を概観する。夏季・冬季を合わせた過去8大会の放送時間と日本代表選手数をまとめた(図表2-24)。日本代表選手数をみると、夏季大会、冬季大会で大きな差があることがわかる。出場する日本選手数や実施競技数などが夏季と冬季では大きく異なることから、一概に比較することは難しいことが図表からも確認できる。放送時間に着目すると、100時間を超えたのはリオ大会、平昌大会、東京大会の3大会である。2013年に東京パラリンピックの開催が決定し、東京2020組織委員会が発足したのが2014年1月である。東京2020スポンサーシッププログラムが開始された2015年から、メディアが東京大会に向けた機運醸成のフェーズに入ったと推察でき、その翌年リオ大会を迎えた。メディアにとってリオ大会は、東京大会に向けたリハーサル的な意味合い、様々な試験的な取り組みに挑戦した大会だったと言えるだろう。その結果が、初めて200時間を超える放送時間につながったと考える。大会開催後の放送時間もリオ大会だけが100時間以上だったことから、平昌、東京に向けた機運醸成の観点では、リオ大会は、非常に重要な大会であったと言えるだろう。

図表 2-24 過去 8 大会(夏季・冬季)の放送時間と日本代表選手数

大会名	時季	開催年	放送時間	(時:分:秒)			日本代表選手数
				開催前	開催中	開催後	
北京	夏	2008	56:45:18	12:24:09	32:45:42	11:35:27	162
バンクーバー	冬	2010	35:27:13	10:27:01	18:34:37	6:25:35	41
ロンドン	夏	2012	78:14:15	17:12:35	44:48:22	16:13:18	134
ソチ	冬	2014	72:05:15	37:47:30	23:16:57	11:00:48	20
リオデジャネイロ	夏	2016	234:36:59	61:40:29	64:11:26	108:45:04	132
平昌	冬	2018	113:28:40	38:11:21	57:24:37	17:52:42	38
東京	夏	2021	230:47:09	70:23:23	122:00:12	38:23:34	254
北京	冬	2022	79:18:26	33:06:50	34:31:35	11:40:01	29

こうした事情から、放送時間の観点で見れば、リオ大会、平昌大会、東京大会の3大会は、TV各局も特別な報道体制がとられたこともあり、国内で開催された東京大会に向けた機運醸成の役割を担った“特別”な大会であったと位置づけることができる。“特別”な大会が終了し、コロナ禍、ロシア・ウクライナ問題があるとはいえ、“平時”に戻った北京大会をどう捉えるかは、ソチ大会との比較でみるのが、現実的だ。ソチ大会(72時間5分15秒)と比べて、北京大会(79時間18分26秒)は同規模の放送時間を維持している。東京大会で盛り上がりを見せた放送時間が、“特別”の大会が終了した後どのように変化したかについては、同じ夏季大会であり、“平時”に戻った2024年のパリ大会をみて評価したいと考える。

(小淵和也)

## 【コラム】 ロシア・ウクライナ問題について考える

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所

政策ディレクター 小淵和也

本調査の実施期間中にロシアのウクライナへの軍事侵攻が始まった。コロナ禍で実施された東京 2020 パラリンピック大会に続き、北京 2022 大会も、大会開催の是非を含めて、過去のパラリンピックとは一線を画す形での大会となった。本稿では、ロシアによるウクライナ軍事侵攻(以下、ロシア・ウクライナ問題)に焦点をあてて、放送時間をみていく。

ロシア・プーチン大統領は、2022 年 2 月 24 日、ウクライナ東部での軍事作戦決行を発表した。対するウクライナ・ゼレンスキー大統領もロシアとの国交断絶を宣言し、ウクライナ全土に戒厳令を発令し、市民に抗戦を呼びかけた。そうした緊迫した国際情勢は、2022 年 3 月 4 日に開催を控えた北京大会にも大きな影響を及ぼした。北京大会の開催前、開催中、開催後の障害者スポーツやパラリンピックに関する放送時間は合計 79 時間 18 分 26 秒、そのうち、ロシア・ウクライナ問題に関する放送時間は、20 時間 11 分 58 秒と放送時間の 4 分の 1 を占めた(図表 2-25)。「開催前」「開催中」「開催後」でロシア・ウクライナ問題に関連する割合をみていくと、開催前(19.2%)、開催中(28.8%)、開催後(33.6%)と戦禍が悪化するにつれて、占める割合が増えていったことがわかる。

図表 2-25 北京大会の放送時間におけるロシア・ウクライナ問題の放送時間

(時:分:秒)

	開催前	開催中	開催後	計
北京全体	33:06:50	34:31:35	11:40:01	79:18:26
ロシア・ウクライナ関連	6:20:48	9:55:50	3:55:20	20:11:58
割合	19.2%	28.8%	33.6%	25.5%

テレビ番組内で取り上げられたコーナー別にロシア・ウクライナ問題に関する報道をみると、「スポーツ」が 10 時間 9 分 13 秒と最も多く、ついで「政治・国際」の 9 時間 46 分 31 秒であった(図表 2-26)。コーナー別の放送時間の割合をみると、「スポーツ」では 19.1%であったが、「政治・国際」では 74.9%と、放送時間の多くをロシア・ウクライナ問題に割いていたことがわかる。

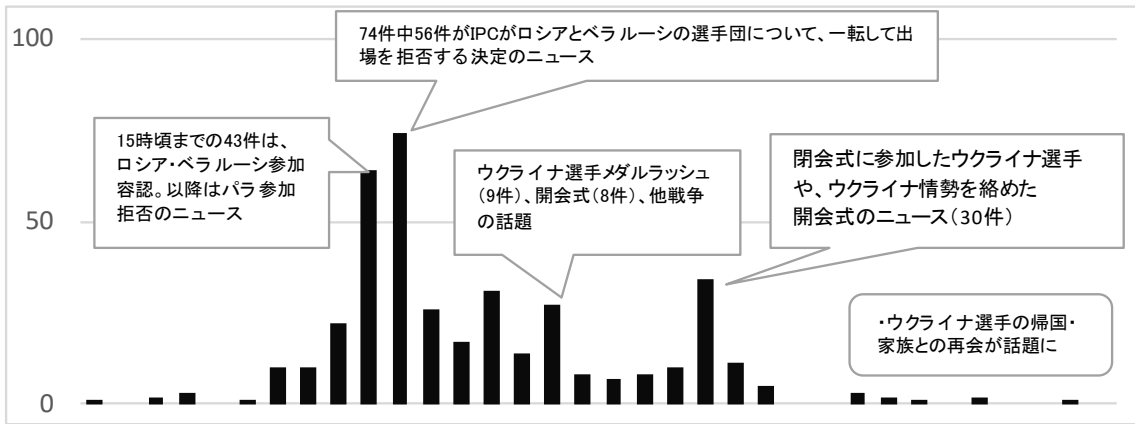
図表 2-26 北京大会の番組内コーナー別にみる放送時間とロシア・ウクライナ問題の割合

コーナー	放送時間 (時:分:秒)		コーナー別放送時間に占める割合
	全体	ロシア・ウクライナ関連	
スポーツ	53:04:24	10:09:13	19.1%
政治・国際	13:03:01	9:46:31	74.9%
暮らし	5:04:46	0:12:26	4.1%
文化・芸能	3:47:51	0:00:14	0.1%
社会	3:10:25	-	-
トピックス	0:43:07	0:03:34	8.3%
ビジネス	0:21:35	-	-
サイエンス	0:03:17	-	-

放送時間と戦禍の経過を日別に追っていく(図表 2-27)。ロシア軍のウクライナ侵攻が続く中、国際パラリンピック委員会(IPC)は3月2日に国旗、国歌を使わない「中立選手」としての参加を容認することを発表したが、翌日に一転して、ロシアとロシアのウクライナ侵攻に協力的なベラルーシの選手のパラリンピック出場を認めないと、改めてリリースを出した。3月3日、4日の放送件数が急増したのは、IPCの方針転換が理由として考えられる。北京大会の開幕後は、ロシア・ベラルーシ選手の出場不可の話題から、戦禍で大会に参加したウクライナ選手の活躍に目が向けられてきた。大会序盤には、ウクライナ選手の開会式参加やメダル獲得の報道が増え、大会終盤にはウクライナ選手の閉会式出席や激化してきた戦禍のウクライナ情勢に絡めた報道が多くなった。大会閉幕後は、パラリンピックを絡めた報道は減少し、ウクライナ選手の帰国や家族との再会が話題となった。

放送時間と放送件数でロシア・ウクライナ問題を見てきたが、平和の祭典であるパラリンピックの報道にこれほどまでに戦争関連の話題が混じった大会は、過去にはなかったのではないかと。改めて、スポーツができることのありがたさを感じつつも、異例の大会の中でプレーせざるを得なかった選手の心情を察するに余りあると言えよう。

図表 2-27 北京大会前後におけるロシア・ウクライナ問題の放送件数と戦禍の状況



期間	2月							3月																												
	22	23	24	25	26	27	28	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
	開催前							パラリンピック(3/4~13)開催中										開催後																		
件数	1		2	3		1	10	10	22	64	74	26	17	31	14	27	8	7	8	10	34	11	5				3	2	1		2				1	